

にこにこ きらきら ゆめにむかって



おともがわ

学校報 No.55

保護者版

平成 31 年 3 月 20 日

みんなで育む豊かな心・健やかな体・確かな学力

卒業・修了おめでとうございます！

3月14日、なごりの雪が降る生憎の天気でしたが、「Heart 学年」の22名が卒業していきました。稲葉PTA会長さんの祝辞にもあったように、これまで関わってくださった方々への感謝の気持ちを忘れずに、「ありがとう」を素直に言える心をもって自分の夢に向かって進んでほしいと思います。卒業生と在校生の心合わせた歌や呼びかけも素晴らしく、感動的な卒業式だったとお褒めの言葉を来賓の方々からも多く頂きました。

そして、今日は修了式。今日で本校の一年間の教育活動が全て終了いたしました。一年間、本校の教育に対して深いご理解と、惜しみないご協力を頂きましたことに、改めて感謝申し上げます。

今日の修了式で、私は子どもたちに次のような話をしました。

今日は、「残心」（ざんしん）ということについて話します。

「残心」とは、字の通り「心を残す」という意味で、日本に昔から伝わる大事にされている考え方です。

日本で昔から行われてきた「武道」、例えば剣道とか柔道や弓道、それと「芸道」というお茶をたてる茶道やお花を活ける華道などでも使われている言葉です。一つの動作を終えた後でも心を切らさないという意味です。

例えば剣道では、相手に「めん」と打ち込んで一本取って勝ちになっても、しばらくその構えを解かないで、その構えをしたままにしておくことです。茶道では、お客さんが帰った途端に大声で話し始めたり、急いでさっさと片付けたりしないで、帰っていくお客様が見えなくなるまで、ずっと見送ります。その後、一人で静かにお茶を立てて今日のお客様を思い出します。

つまり、やり終えた後、「終わったー！」とすぐに気持ちを終わらせてしまうのではなく、取り組んできたときの一所懸命の「心」をしばらく「残す」のです。そうすることで、より強いもの、よりよいものになり、更によりよい結果につながるのです。

みなさんも、今年度の勉強は今日で終わりになりますが、「やったー！」と終わりにしてしまうのではなく、これまで頑張ってきた「心」を「残し」、静かに振り返ってみてください。

本当に一年間、頑張り続けることができたのか、優しい気持ちで友達に接することができたのか…。いろいろな人にお世話になっていることも一緒に考えてみるといいですね。

お父さん、お母さん、おじいちゃんやおばあちゃん、先生方や学校の職員の方々、友達、みんなのお陰でこの一年間を終えることができるのですね。「ありがとうございます」の気持ちをもつことも大切なことです。

今年度のスタートにあたり、情熱を忘れることなく教育活動にあたるという意味を含め、私たち職員の出発点を「UCHIOTOMO PASSION」としたのでした。医者が決して患者を見離さないのと同じように、私たち教師も、決して子どもたちの成長をあきらめず情熱を持ち続けて教育活動にあたることを一人一人の職員が心に決めていたはずで、それが果たしてできていたのかどうか…。私たち職員もこの一年間に心を残して真摯に振り返りたいと思います。そして、その改善に向けて、来年度も心を含めた指導にあたりたいと考えています。

新年度も変わらぬご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。